

# 発音学習における 英単語帳作成の学習効果の検証

---

学籍番号：1421009 氏名：星野勇太

指導教員：鷹野孝典

# 研究背景

---

- 英語学習の中で英単語を覚える際、単語帳や単語アプリ(eラーニング)を利用する人が多い。
- 中高生の英語学習のつまづきの原因の上位
  - ・ 単語を覚えるのが苦手
  - ・ 学習習慣がついていない



([1]：中高の英語指導に関する実態調査2015)

→単語学習から始めようとするが苦手とする人が多い。

- 単語帳を使った学習は、**単語と意味を覚えるだけの単純な記憶学習**を繰り返してしまうという問題点がある。

# 研究動機

---

- 単語帳を自らが作成する際に、以下のメリットがある.
    - ・ 学びたいものを作れる.
    - ・ 中学校および高校の授業で多い、テキストを使った「受動的な学習」と差別化できる.
- ([1]: 中高の英語指導に関する実態調査2015)
- ・ 作問による学習効果が期待できる.



作問する際に、単語と意味以外の付加価値を追加することで、単純な記憶学習から、**英単語に対してより深い理解が得られる学習**に変わると考えられる.

# 関連研究(1)

---

[1]：中高の英語指導に関する実態調査2015

(ベネッセ教育総合研究所, 2015)

- ・中学校高校を対象に, 英語に対する意識調査

[2]：「生活者のeラーニング利用状況実態調査」実施結果のご報告

(日本イーラーニングコンソシアム, 2016)

- ・eラーニング利用状況, 市場動向の調査

# 関連研究(2)

---

[3]：作問演習システム「CollabTest」利用による学習効果の検証

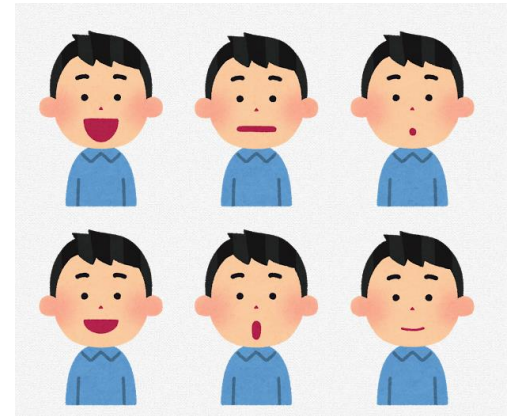
(創価大学工学部：高木・坂部・勅使河原，全国大学IT活用教育方法研究発表会，2009)

- ・ 学習者が問題を作成し，eラーニングで収集した後，その問題でテストする.
- ・ 従来のeラーニングとは異なった特徴がある.

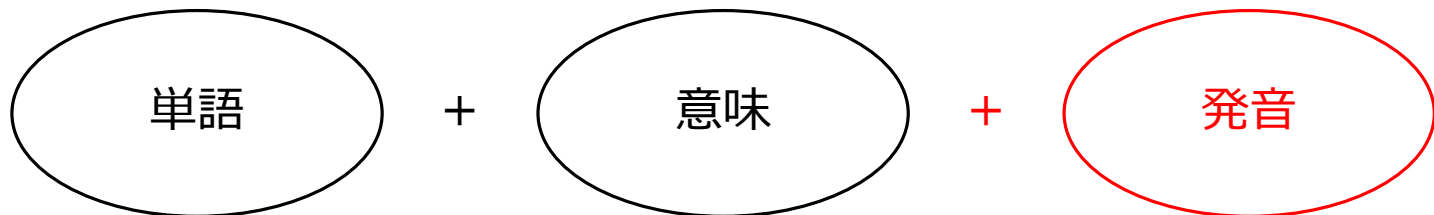
# 研究課題

●付加価値に成り得る情報例を以下に挙げる.

- ・ 発音記号
- ・ 舌の動き
- ・ 写真
- ・ 発音音声
- ・ 関連語
- ・ 絵
- ・ アクセント
- ・ 類義語




➡ **発音**を付加価値として作問し学習した際、英単語に対してより深い理解が得られる学習に成り得るのか.



# 提案システム

---

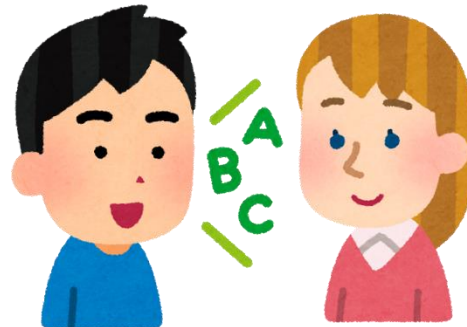
- 単語帳を作成・投稿・学習することができるeラーニングシステムを構築する.
  - 発音記号を自動で参照する機能を作成.
  - 自分以外の学習者が投稿した単語帳での学習も可能にする.
-  評価機能を追加する.

# 本研究のアプローチ

---

- 単語帳に発音記号を付加する.
- 出題された問題に対し, 発音記号を意識しながら発音して解答する.

➡ 日常生活での英会話に使える実践的な英単語を覚えることができる.





# 実装

---

1. 英語をコンピュータに発音させる機能を作成.

英語

apple

発音

リセット

2. eラーニングシステムのデータベース設計.

# 実験

---

- 目的：発音を付加価値とした提案手法の学習効果の検証
- データ：英検2級レベルの英単語10個2セットを用意.  
被験者：学生5名
- 手順
  1. 単語と意味を入力して作成 → 学習
  2. 単語と意味, 発音での作問 → 学習
  3. 2つの学習についてアンケート

# 今後の予定

---

- 実装

eラーニングシステムの構築.

発音記号参照機能の作成.

実験の定義

12月 執筆開始